



「日本環境懇談会議事録」より

篠田 雅夫*

Masao Shinoda

日時：1993年8月15日 14:00～17:00

出席者：政治家 (P), 中央官庁要人 (CMU), 地方自治体要人 (LMU), コンサルタント (CNS), 大手メーカー役員 (M), 研究者 (R), 廃棄物処理処分企業役員 (WT), 学者 (PRF), 新聞記者 (J)
司会者……市民 (CVL)

東京湾を一望のもとに望める地上500メートルの超高層ビルの最上階会議室に、各界の廃棄物に造詣の深い人達が集まった。真夏の太陽にきらめく海、入道雲、高速道路路上の自動車、新幹線が玩具のような景色を足下に眺めながら懇談会が始った。

司会「今日は、日本の環境問題解決に何が欠けていて、自分は何をすべきか」を考えようとの一市民の呼びかけに、「日本の環境を良くしよう」と云う共通の目的を持った各界の方々にお集まりいただきありがとうございます。まずは、皆様それぞれの立場での悩みを御披露いただくことから懇談会をスタートしたいと思います」

J「最近では、毎日どこかの新聞やTVで環境問題を取りあげていますが、本質を理解して、どうすべきかは不明確で、かえって皆様に御迷惑をかけているケースもあります。最近では、P先生は、TVや新聞等で御活躍ですね。

P「うん、みたまえ東京湾岸の開発を、まもなく戦後50年になるが、焼野原だった東京をここまでしたのは日本人の勤勉さと頭脳だよ。しかし、環境問題は勤勉さと頭脳だけでは解決しそうもない」

CMU「ここから眺めると霞ヶ関も一握りですね。国会対策、予算取り、縄張りあらしめ等々あほらしくなるなあ。環境問題は、今の縦割り行政では対応出来

なくなっているのはわかっているのだがなあ」

M「我々は、関係省庁の行政指導のもと、時には行政官庁を利用させてもらって、日本経済のひいては企業の拡大を達成してきたのですが、環境問題はその重要性を理解できても、どう取組んでいくか、ゴールが見えないので、まだ企業としてはベクトルが一つにならない状態ですよ」

R「たしかに私達研究者も、廃棄物のリサイクルや処理に関連した技術開発を行ないそれなりの成果はあがっているのですが、その成果が将来使ってもらえるものか、研究の為の研究になってしまったのではないか、不安があります」

PRF「研究者はまだ幸せだよ。研究テーマを決めてその目的に向ってまっしぐら。その目的が達成されれば評価される。しかし学者に対しては、スペシャリストでありかつ十分に広汎な知識を兼ね備えて、ある程度の柔軟性も期待されている。特に環境(廃棄物の分野)に関しては、理論だけでは空論になりがちだし、現状の把握さえ範囲が広すぎて不十分なため、判断をまちがうおそれがある。

官民及び一般の方々からも「先生」と呼ばれ、環境問題解決に大きな期待をされているのはわかっているも自分の専門分野以外の勉強も求められ、苦勞しています」

CNS「私達コンサルタントは、お客さんがかかえている問題を的確に把握し、その解決に保有する知識、手法及び知恵を使って問題解決のお手伝いをする業務と、国内外の情報収集、分析、評価にもとづき、その方向付けを提案するシンクタンクとしての業務があります。環境問題に関して、依頼者は私共の提案を採用し実施してもらおうのですが、実施段階ではなかなかうまくいきません。経済重視の価値観、現状転換への反撥等、その原因はいろいろありますが、人、物、金を環境対策にどの程度投入すべきか、又、その影響が国、企業及び国民一人一人に対し効果があるのか定量的な

*清水建設(株)エンジニアリング本部担当
〒105-17 東京都港区芝浦1-2-3 シーバンスS館

評価ができないのが現状です」

M「今迄は工事からでる廃棄物は、工場内の処分場に安全な形で処分してきました。ところが、廃棄物の問題が廃掃法改正、リサイクル法、ロンドン条約等内外の規制強化、関係者の指導により自社の廃棄物処分方法の見直しを行わざるを得なくなりました。

一方、消費者に対してもかつてはお客様に喜ばれる物を作って売れば良かったのですが、使用済製品の処理処分迄考慮し、その対応が求められるようになってきていますし、メーカーも色々努力をしています。

しかし「産業廃棄物は、すべて製造者の責任で対処」の原則に対し、頭から反対はしませんが、廃棄物処理処分投資が巨大化すれば、企業努力の限界をこえ、製品原価に反映せざるを得なくなり、競争力の低下、極論すれば、製造中止に至る可能性もあります。行政サイドの今一つ柔軟な対応を期待します」

LMU「私達も法の範囲内でかなり柔軟な対応をしているつもりですよ。ただ地方行政の予算枠内で中央省庁の補助金、融資を得ながら施設整備を行っています。地方自治体によっては、一廃と共に一部産廃も受入れているところもありますし、今後、特管廃棄物、有害物等は、一廃、産廃の枠を徹廃した合理的な対応

を検討している自治体もあります。今少し時間をください」

WT「私共廃棄物処理、処分業者は、中小企業の集りであり、処分場所を確保した業者が廃棄物を有料で受入れることにより事業を成立たせてきたのですが、「廃棄物は環境汚染の元凶だ」「廃棄物は資源なり」等の考えが一般化するにつれ、廃棄物処理の重要性がたかまり、各地で処理事業が行なわれるようになったり資源化の研究等もさかんになって技術的には色々の可能性がはっきりしてきました。ところがそれ等新技術の実用化には膨大な資本投下が必要だし、その回収リスクをおいきれないのが実状です。単純に補助金、融資制度により下流部分を支援すれば、国の役割は達成されるのではなく、廃棄物排出→収集→処理及びリサイクル→処分のストーリーにもとづく、その具体化のソフトにも力を入れて欲しい。そのストーリーの信頼性が高いほど我々業者も安心して環境事業に投資できます」

司会「今回は、紙面の都合上、悩みの一端を紹介いただきましたが、次の機会には、悩みを問題点に展開し、その解決に皆様の知恵をしばっていただくこととなります。どうも、ありがとうございました」

協賛行事ごあんない

「第16回触媒燃焼に関するシンポジウム」

について

<主催> 触媒燃焼研究会, 触媒学会
 <協賛> 日本化学会, 日本エネルギー学会, 他
 <日時> 平成5年11月26日(金) 13時30分~17時
 <会場> 東京大学工学部11号館
 東京都文京区本郷7-3-1
 TEL 03-3812-2111

<参加費> 会員5,000円, 学生1,000円,
 非会員8,000円(資料代含む)
 <連絡先> 〒816 福岡県春日市春日公園6-1
 九州大学大学院総合理工学研究科
 材料開発工学専攻 荒井弘通
 TEL 092-573-9611 内線310
 FAX 092-575-2318